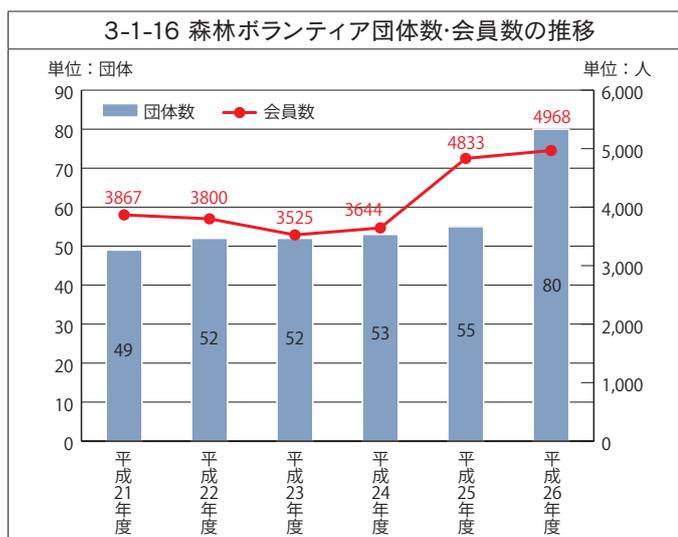


## (2) 森林を支える仕組みづくり

〔8つの施策〕

### ア 現状・課題

- 社会全体で森林を守り、次代に引き継ぐ仕組みとして、県民や事業者の皆様幅広く費用負担していただく「ぐんま緑の県民税」を導入しました。
- 「ぐんま緑の県民基金事業」により、群馬県森林ボランティア支援センターを設立し、専用ホームページ「モリノワ」の開設や情報誌の発行を行っているほか、市町村提案型事業により、県内各地で県民参加による地域独自の活動が行われています。
- 森林の造成には50年、100年という長い年月を要するため、親から子へ、子から孫へと世代を超えた取組が必要です。
- 企業、ボランティア団体等、様々な主体による森林整備活動の輪が拡大しています。
- 「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」を趣旨として、8月11日が国民の祝日「山の日」に制定されました。
- 中高年や女性の登山ブーム、森林療法<sup>※1</sup>等、森林の総合利用が活発化しています。
- 山村地域では過疎化・高齢化が進行し、集落機能の維持が困難な状況になりつつあります。
- 近年、山村の有する教育力が見直され、都市の子供たちが山村留学や長期滞在によって交流を深める取組が始まっているほか、山村で暮らす若者たちも散見されます。



(資料 群馬県：緑化推進課資料)

### イ 総括

- 平成26年4月から「ぐんま緑の県民税」を導入し、条件不利地等の森林や里山・平地林の整備等を進めており、県民主体の取組として地域に定着させていく必要があります。
- 森林環境教育を推進していくため、今後も指導者の育成やボランティア団体の支援をしていく必要があります。

### ウ 施策展開

社会全体で森林を守り、育て、次代に引き継ぐ取組を推進します。

## 〈重点取組〉

- ◇水源地域等の森林を整備するとともに、災害に強い森林づくりや荒廃した里山・平地林の整備を支援し、安全・安心な生活環境を創造するため、「ぐんま緑の県民基金事業」による取組を推進します。
- ◇森林への理解を深めてもらうための「森林環境教育」と「普及啓発」活動に対して支援します。
- ◇森林ボランティアなど、民間活力を用いた森林整備を推進します。
- ◇森林ボランティアへの情報提供や森林整備作業器具の貸し出しなどを行う「森林ボランティア支援センター」の運営を行います。
- ◇フォレストリースクール<sup>※2</sup>や緑の少年団活動などを通じて森林や自然の学習機会の充実を図ります。
- ◇森林環境教育の指導者である「緑のインタープリター<sup>※3</sup>」を養成します。

### ◆数値目標

項目	現状(平成22年)	実績(平成26年)	目標(平成31年)	備考
森林ボランティア団体会員数	3,800	4,968	5,500	
企業ボランティア協定締結数 (県有林整備パートナー事業 <sup>※4</sup> による協定を含む)	27	35	50	
森林環境教育参加者数(人/年)	2,200	6,530	7,000	
森林によるCO <sub>2</sub> 吸収量認証 <sup>※5</sup> 件数	8	17	40	9年間累計
森林公園入場者数(万人/年)	72	48*	54*	

\* 平成25年4月から森林公園「おうら創造の森」を緑化センター見本園に管理替えしたことにより森林公園から除外したほか、目標値については東日本大震災の影響等による見直しを行いました。

### ◆具体的施策

#### ①ぐんま緑の県民税制度の推進

- ・林業経営が成り立たない条件不利地であって、まとまりのある森林を対象に強度の間伐を実施し、森林の公益的機能の維持・増進と災害に強い森林づくりを行うなどの取組を推進します。
- ・安全・安心な生活環境を創造するため、荒廃した里山・平地林を対象に市町村と地域住民・NPO・ボランティア団体等との協働による地域に根ざした取組を支援します。
- ・児童生徒や県民を対象に、自然観察会や森林整備体験などを行う「森林環境教育」と、



写真：ぐんま緑の県民基金事業により手入れがされた森林

森林の働きや大切さなどを「普及啓発」する活動を支援します。

## ②県民参加の森づくり

- ・ 県植樹祭の開催や緑化運動ポスター・標語の募集、緑の募金活動等を県緑化推進委員会と連携して推進します。
- ・ 森林体験イベントや緑化講座、森林・林業に関する展示・研修等を実施します。
- ・ 森林ボランティアなど、民間活力を用いた森林整備を推進します。
- ・ 森林ボランティア情報の収集と提供、指導や森林整備作業器具の貸し出しなど、一体的なサポートを行う「森林ボランティア支援センター」の運営を行います。
- ・ 森林ボランティアの技術向上のため、県及び林業関係団体によるチェーンソーや刈払機の講習会を開催するほか、現場での実習を通して実践型の森林ボランティアを養成します。
- ・ 企業参加の森林づくり<sup>※6</sup>を推進するため、フィールドの紹介や森林所有者との協定の締結など、企業と森林所有者の仲立ちを積極的に行います。
- ・ 企業や森林ボランティアが手入れを行った森林の二酸化炭素吸収量を県が認証します。
- ・ 利根川を中心に、水の恩恵を受けている下流の人々等との森林整備協定の締結や費用負担による森林整備を推進します。
- ・ 二酸化炭素の排出と森林整備による吸収を相殺するカーボン・オフセット<sup>※7</sup>について、幅広い分野の企業や自治体との協定締結を推進します。
- ・ 新たに制定された国民の祝日「山の日」や毎年行われている県植樹祭などを通して、森林と人との好ましい関係性の構築に努めます。
- ・ 自然と人との共生に向けた、適切な森林の利用と保全の両立に努めます。
- ・ 森林をはじめとした、山村地域の様々な資源を活用した多様な交流メニューの作成等によって、都市住民と地域住民との交流を促進します。
- ・ 県内へのIターン・Uターン者が、森林・林業に関わることのできる仕組みづくりに取り組みます。



写真：緑の募金活動



写真：森林ボランティア支援センターの安全講習会



写真：企業参加の森林づくり活動

### ③森林環境教育の推進

- ・ 緑の少年団<sup>※8</sup>活動が活発になるよう関係機関と連携し、子ども達の自由な発想による取組を支援します。
- ・ フォレストリースクールや家族向けの自然体験活動などを通じて森林や自然の学習機会の充実を図ります。
- ・ 本県の自然や森林の魅力を県民に伝え広めるため、森林環境教育の指導者である「緑のインタープリター」を養成・活用します。
- ・ 県立森林公園や憩の森・森林学習センター、緑化センターなど森林環境教育学習施設の充実を図ります。
- ・ 県民が森林や自然に触れ合う場として森林公園などの施設を整備し、より多く利用してもらうためのPRを行います。
- ・ 森林療法等、様々な森林の利用活動を推進します。



写真：緑の少年団による植樹活動



写真：フォレストリースクール  
(緑のインタープリターの活動)



写真：森林公園での自然体験活動



## 『用語の解説』

### ※1：【森林療法】

森の風景や香り、鳥のさえずり、木の肌ざわりなど、森が持つ力強さを体全体で感じて心身を癒やし、元気を取り戻させようとする方法で、森林浴はその代表的なもの。

### ※2：【フォレストリースクール】

子どもたちの身近な学校林や近所の河川、森林での自然・環境学習、森林の持つ機能や多様性に気づく学習、森林・林業の体験学習など、各小・中学校のニーズに応じて、森林環境教育に携わる外部講師・学習内容の企画などをコーディネートする取組。

### ※3：【緑のインタープリター】

森林や緑づくりに関する広範な知識・技術を有する指導者であり、自然観察やネイチャーゲーム指導等を行っている。

### ※4：【県有林整備パートナー事業】

事業の趣旨に賛同し寄付をいただいた企業・団体をパートナーとして、地球温暖化防止など森林が持つ多様な機能の向上を図ることを目的に、県有林にパートナー森林を設定し、その整備や保全を行う事業。

### ※5：【森林によるCO<sub>2</sub>吸収量認証】

企業・自治体・ボランティア団体などが、森林整備協定を結んで実施する植栽・間伐などの森林整備等の効果を、二酸化炭素の吸収量として県が認証する制度。

### ※6：【企業参加の森林づくり】

社会貢献として森林整備ボランティア活動をしようとする企業や団体と、自らの手でなかなか整備ができない森林所有者との間を県が橋渡ししながら、群馬県の森林をみんなの手で守り、育てていく取り組み。

### ※7：【カーボン・オフセット】

自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的に削減努力を行うとともに、削減が困難な排出量について、他の場所で実現した排出削減・吸収量等を購入することなどにより相殺(オフセット)すること。

### ※8：【緑の少年団】

緑を愛し、守り、育てる活動を通して心身を鍛え、人や社会を愛する心豊かな人間を育むことを目的とした団体。群馬県では県内の全小学校と半数以上の養護学校等に結成され、全国一の規模を誇る。



## COLUMN [コラム] 林業試験場の取組 (再掲)

本文中に記載のある林業試験場の取組について、まとめて再掲します。

- ・ 短期間での用材生産を可能にするための育林技術について、調査・研究。[皆伐、再生林の推進]
- ・ 低コストな保育を行うための、初期成長の早い少花粉スギを用いた採種園の造成。[苗木の生産供給体制整備]
- ・ ニホンジカやツキノワグマの行動生態を把握し、新たな器具の開発等による効果的な捕獲・防除技術の調査・研究及び開発。[森林獣害対策の推進]
- ・ 木材の過乾燥による強度劣化を抑制する手法の開発など、高品質な乾燥材を生産するための乾燥技術に関する研究。[県産材製品の品質向上]
- ・ 県産材の横架材等への利用を促進するための、利用技術の開発や強度、性能を高めた製品生産に向けた研究。[県産材製品の品質向上]
- ・ 県産材の住宅建築用資材としての用途拡大を図るための、強度性能の把握や内装材・枠組壁工法部材への利用技術等、新たな材料開発の研究。[住宅等における県産材利用率の向上]
- ・ 原木しいたけ栽培等における放射性物質の効果的な低減方法や、病虫害による発生不良・品質低下を防ぐ手法の開発に向けた研究。[安全・安心なきこの生産]
- ・ 優良な原木栽培技術の体系化やLEDを利用した省コスト栽培等、高品質なきこのを低コストで栽培する技術の研究。[きのこ生産体制の強化]
- ・ 水源の涵養<sup>かん</sup>、災害の防止など、これまで重視されてきた公益的機能の発揮に加え、生物多様性の保全に資する森林の整備方法についての調査・研究。[災害に強い森林づくり]
- ・ 一斉林や単層林から混交林や複層林へ誘導するための研究。[災害に強い森林づくり]



少花粉スギ品種のミニチュア採種園



GPS首輪を装着したニホンジカ



枠組壁工法部材の強度試験



LEDを用いたマイタケ栽培